

学位論文要約

アメリカ社会科における教員研修の思想と方法

—社会科教師の資質・能力形成を視点として—

広島大学大学院 教育学研究科

渡邊 巧

2016

I. 論文題目

アメリカ社会科における教員研修の思想と方法
－社会科教師の資質・能力形成を視点として－

II. 論文目次

序章 本研究の目的・意義・方法

- 第1節 研究主題
- 第2節 本研究の意義と特質
- 第3節 研究方法と本論文の構成

第1章 社会科教員研修改革の論点と方向性

－我が国における社会科教員研修を通して－

- 第1節 社会科教員研修の現状と課題
- 第2節 社会科を中心とした校内研修の意味と効果
 - 第1項 本節の課題
 - 第2項 校内研修の目標
 - 第3項 校内研修の取組
 - 第4項 校内研修の効果
 - 第5項 校内研修の特質と意義
- 第3節 社会科教員研修改革の論点と方向性

第2章 社会科授業構成力の向上を図る研修

－SSIA プログラムの場合－

- 第1節 本章の課題
- 第2節 研修の全体構成
 - 第1項 SSIA プログラムの概要
 - 第2項 研修の内容編成
 - 第3項 研修の単元構成
- 第3節 研修の構造
 - 第1項 研修の方法原理としての追体験
 - 第2項 社会科教員研修の思想的基盤
- 第4節 研修の特質と意義

第3章 社会科教科観の確立を図る研修

－H. Lynn エリクソンによる実践支援の場合－

- 第1節 本章の課題
- 第2節 研修の全体構成
 - 第1項 H. Lynn エリクソンによる実践支援の概要
 - 第2項 研修の目標
 - 第3項 研修の過程
- 第3節 想定された社会科教師像
 - －概念に基づく社会問題学習－
 - 第1項 カリキュラムの基本構造
 - 第2項 単元計画
 - 第3項 評価活動
- 第4節 研修の効果
 - －社会科教師による自律的な授業改善－
 - 第1項 研究協力者の概要
 - 第2項 授業の特質と改善過程
 - 第3項 授業改善の要因
 - 第4項 小括
- 第5節 研修の特質と意義

第4章 社会科教科観の拡張を図る研修

－PASSプログラムの場合－

- 第1節 本章の課題
- 第2節 研修の全体構成
 - 第1項 PASSプログラムの概要
 - 第2項 研修の目標
 - 第3項 研修の過程
- 第3節 研修の構造
 - 第1項 基盤としての社会問題学習
 - 第2項 研修の方法原理としての分析
- 第4節 研修の特質と意義

終章 アメリカ社会科教員研修の特質と意義

－社会科教師の資質・能力形成を視点として－

- 第1節 アメリカ社会科教員研修の特質と意義
- 第2節 社会科教員研修改革の方途
 - －研修プログラムの構想－

主要参考文献一覧

Ⅲ. 論文要旨

序章 本研究の目的・意義・方法

本研究は、社会科教師の資質・能力形成のあり方を解明し、社会科教員研修の改革をはかる方途を示す。そのために、多様性に富み、我が国の教員研修に新たな示唆を得ることができるアメリカ社会科における教員研修に注目し、その特質と意義を明らかにする。

このような研究が求められる理由として、次の3点がある。

第1に、社会科教員研修の質的な充実が求められている。子どもが実際に受ける授業の質は、教師の資質・能力に負うところが大きいという理解が、カリキュラム研究の発展に伴って再認識されている。学習指導要領や教科書の改善、授業理論の提案に留まらず、自律的な単元構成・教材研究ができる教師の育成をおこなっていくことが求められている。

第2に、社会科教員研修の研究方法论として、研修カリキュラムの解明が求められている。現状、社会科教員研修を対象にした分析研究の蓄積は、他の研究領域に比べて少ない。また、先行研究においては、研修自体ではなく、その研修を受けた教師の成長が注目されている。そこには、「教師の資質・能力は、どのように成長するのか」といった実証的な問いが存在している。それに対して、本研究では、「教師の資質・能力を形成するためには、どのように支援すべきか」といった規範的な問いを持っている。この問いに対して示唆を得るために、研修自体のカリキュラム構造に注目する。

第3に、1990年代から現在に至るまでのアメリカ合衆国(以下、アメリカ)における事例を取り上げることが適している。アメリカでは、大学や学会、博物館、放送局等が、多様な教員研修を提供しており、玉石混交ではあるが、我が国よりも複線的な教員研修の機会が保障されていることが注目される。教育行政学的には、教員免許更新制との関連で説明されることが多い。それに対して、本研究では、各教員研修の取組に内在する社会科教師の資質・能力形成の考え方や具体的なアプローチを捉えていきたい。

社会科教員研修それ自体は、教師教育者(熟達教師や指導主事、大学教員等)たちが取り組むべき職務上の課題、または社会的貢献の一環とみなされており、それらを分析していくという発想は、まだ途についたばかりである。

しかし、教員研修とは、見方を変えれば、教師教育者たちの現職教師の資質・能力形成に寄与するための考え方が濃縮されていると考えることができる。限られた時間で、少しでも意義のある研修を組織するために、彼らは、多様なものから取捨選択し、教員研修を構成している。それらは、教師教育者たちの教師としての実践経験や学術的な知見が踏まえられており、教員研修の取組自体が、社会科教育学における重要な研究対象になりうるだろう。

すなわち、社会科教育学における教員研修の研究では、各教員研修に内在する社会科本質論に注目し、そうした社会科を実現できる教師の資質・能力形成のあり方を解明することが求められる。

具体的な研究方法は、以下の通りである。

第1章では、社会科教員研修改革の論点と方向性を明確にする。そのために、我が国における一般的な教員研修(校内研修)に関して検討をおこなう。これによって、アメリカの事例を選定する視点を提示する。

第2章から第4章では、アメリカの事例に対して、それぞれの研修の教材と手引書等の内容構造の分析をおこなう。このような分析方法は、我が国の社会認識教育学において、カリキュラム、授業や教材等を分析するひとつの有効かつ有力な方法として定着している。

従来、社会科教員研修に関する分析研究は、教育行政学や教育方法学の取り組みを応用しておこなわれてきた。近年では、文献研究だけでなく、観察やインタビュー等の手法も取り入れられているが、それぞれの研修における教科固有性の解明に限界がある。子どもの社会認識形成を担うことができる教師の資質・能力形成の論理を視点に考察する必要があるのではないか。

こうした問題意識は、アメリカを中心とした諸外国の社会科カリキュラムや教材の内容構造の分析によって、社会認識形成の論理を解明してきた先行研究と通じるところである。したがって、従来のカリキュラムや教材を取り上げた社会科教育学研究の方法論の応用が有効であると考えられる。なお、分析を補完するためにメールや対面によるインタビューも実施した。

以上を踏まえて、アメリカにおける社会科教員研修の特質と意義を述べることで、我が国の社会科教員研修改革の方途を示す。

第1章 社会科教員研修改革の論点と方向性

－我が国における社会科教員研修を通して－

本章では、社会科教員研修改革の論点と方向性を明確にした。そのために、我が国における一般的な教員研修に関して検討をおこなった。なかでも、伝統的におこなわれてきた校内研修の事例を分析した。

その結果、「社会科授業構成力」、「社会科教科観」というキー概念が引き出された。前者は、技能的な目標であり、後者は、哲学的な目標といえる。これらを視点として、各教員研修において、社会科教師の資質・能力を、どこまで形成・保障していくのかを議論していくことが求められる。

本研究では、3つのタイプに注目する。順に、1「社会科授業構成力の向上を図る研修」、2「社会科教科観の確立を図る研修」、3「社会科教科観の拡張を図る研修」である。1は2に、2は3に包含される関係にある。

1「社会科授業構成力の向上を図る研修」は、社会科教科観の批判的な検討よりも、単元構成・授業構成の方法の獲得に重点を置いたものである。教師たちが抱える実践上の課題に応えるものといえる。

2「社会科教科観の確立を図る研修」は、単元構成・授業構成の方法の獲得だけでなく、

各教師の社会科授業の見方・考え方を深めていくものである。後者がより重視されている。自身のスタイルを確立していく上で、有効に作用する。

3「社会科教科観の拡張を図る研修」は、各教師の社会科授業の見方・考え方を複数化していくものである。教師たちは、自覚的、または無自覚に、社会科授業の見方・考え方を持っている。いつの間にか、そのスタイルに固定化してしまうことも少なくない。同じ社会問題学習であっても、異なる考え方に触れることで、自身の社会科教科観を拡張していくことができる。より俯瞰的な社会科教科観の確立を目指すものである。

どのタイプにおいても、教師教育者から教師への一方的な教授に陥ることなく、教師たちの実践経験に働きかけ、主体的な学習を保障していくことが求められる。この点においても、優れた取組を検討していく。

これらは、哲学的な類型枠ではなく、傾向性を示したものであり、修正・批判に開かれたものとなっている。

なお、社会科教員研修を検討していく上では、それぞれの教員研修において、そもそも、どのような社会科授業が良いとされているか、という視点が欠かせない。本研究では、その内、社会問題学習の立場に注目する。この立場は、現在における社会問題を何らかの形で扱い、社会をより良くしていくことを目指すものである。全米社会科協議会(NCSS)を初めとしたアメリカ社会科で主力となっている考え方である。また、その扱いの難しさ故に、教員研修が充実している。

このような論点によって、アメリカの教員研修の実例を探した結果得られたのが、第2章以下の分析対象である。

第2章 社会科授業構成力の向上を図る研修

—SSIA プログラムの場合—

本章では、社会科授業構成力の向上を図る研修のあり方を解明した。

具体的な検討事例としては、オンラインの学習サイト「アネンバーグ・ラーナー」が提供している Social Studies in Action : A methodology Workshop, K-5(以下、SSIA と略記)を分析した。これは、ボストン公共放送局(WGBH)が NCSS と共同で開発した社会科教員研修プログラムである。

その結果、SSIA の特質として、以下のことが明らかになった。

第1に、本プログラムは、特定の社会科カリキュラム論や指導論が明示されておらず、社会科の原則とそれを具現化するための方法的な枠組みの提示に留められていた。その中心として、「理解のための教授論：TfU」が活用されていた。

第2に、本プログラムは、オンラインという特性を生かし、実際の受講者たちに、事前に収録した模擬ワークショップの追体験をさせていた。模擬ワークショップ内の受講者たちを鏡として、自己の実践やそれを規定する持論の省察をおこなわせていた。

SSIA には、教授論(授業づくりのフレームワーク)が設定されていた。それらは、“理論”

であると同時に“言葉”であるとされていた。教師たちに、自己の実践を相対化し、他者と議論するための言葉を提示するものとなっていた。これによって、若手もベテランも共通の土俵で議論することが可能になり、教師集団（学校・地域）としての授業構成力を高めていく上でも効果が期待できた。

オンラインによる教員研修は、参加者同士の協働的な学習（コミュニケーション）が行われ難いという欠点がある。しかし、それを逆手にとり、自己内対話を促進することが目指されているともいえる。

第3章 社会科教科観の確立を図る研修

－H. Lynn エリクソンによる実践支援の場合－

本章では、社会科教科観の確立を図る研修のあり方を解明した。

具体的な検討事例としては、教育コンサルタントの H. Lynn エリクソンによる教員研修（実践支援）の取組を分析した。エリクソンは、「概念に基づくカリキュラムと指導」と呼ばれるカリキュラム設計論を提唱する民間の教育コンサルタントである。

分析を補完するために、エリクソンに紹介を受けた社会科教師の Ayo. P マグウッドと、勤務校で彼女のメンターを担っていた Krista. F フェラーロに対して、メールや対面での聞き取りをおこなった。マグウッドからは、約1年間の実践記録(授業用のパワーポイント・テスト・レッスンプラン)の提供を受けた。

その結果、エリクソンの教員研修の特質として、以下のことが明らかになった。

第1に、他教科との関連を考えつつ、教科（社会科）固有のカリキュラム（単元・授業）づくりをおこなっていく枠組みが提供されていた。社会科教師にとっては、概念を視点にして社会的なジレンマを分析していく授業づくりの基盤となっていた。

第2に、教師たちの日々の実践やその成長を特徴づけるための理論や指標が提供されていた。その典型が、職能開発ルーブリックであった。

第3に、授業者としての教師だけでなく、地域や校内におけるメンター・コーチとしての教師教育者を重層的に育成することで、研修効果を増大させようとしていた。教師の日々の授業スタイルを知り、学校・地域の状況を共有する教師教育者の存在が、教師の成長を支えていた。前述のマグウッドとフェラーロが、メンティーとメンターといった関係になっていた。

エリクソンの取組は、教師を意図的に教師教育者へ成長させるカリキュラムを含みもつことで、地域のリーダーを作り出し、教師たちの協働的コミュニティの形成が意図されていた。教科指導力の向上とそれを支えるリーダーの育成を一体としておこなっていることにも特質を見出すことできた。

エリクソンは、自身が、教師として行ってきた実践を相対化・理論化することで独自の研修の仕組みを構築していた。

第4章 社会科教科観の拡張を図る研修

－PASSプログラムの場合－

本章では、社会科教科観の拡張を図る研修のあり方を解明した。

具体的な検討事例としては、NCSS が提供している『パワフルかつオーセンティックな社会科：教師のための職能開発プログラム(Powerful and Authentic Social Studies : A Professional Development Program for Teachers)』(PASS) を分析した。PASS は、ミシガン社会科教育プロジェクトの一環で、開発された社会科教員研修プログラムである。NCSS を通して、提供されている。

その結果、PASS の特質として、以下のことが明らかになった。

第1に、本プログラムは、異なる社会科の考え方の合意点に成立していた。その合意点「パワフルかつオーセンティック」という社会科観であった。具体的には、単元の次元で社会問題学習を実現していくことを意味していた。これによって、PASS は、理想(公的論争問題学習)を持ちつつも、広く社会科を捉えることで、多くの教師のニーズに応えられる柔軟な研修プログラムとして設計されていた。

第2に、本プログラムは、実践例や参加者が開発したプランの分析を方法原理とした研修をおこなっていくことで、教師自身に自己省察を促すものとなっていた。

PASS には、教授スタンダードが設定されている。教授スタンダードが提示されることで、一定の方向付けがなされるとも言える。しかし、それを教師たちに明示し、プログラムが志向する方向性を説明した上で、研修をおこなっていくものとなっていた。そこには、授業を改善していく上では、視点(社会科観)を提示する必要があるというプログラム開発者たちの考え方を見出すことができた。

終章 アメリカ社会科教員研修の特質と意義

－社会科教師の資質・能力形成を視点として－

本章では、アメリカ社会科における教員研修の特質と意義を明らかにした上で、我が国の社会科教員研修を改革する方途を提示した。具体的には、社会科教員研修プログラムの構想をおこなった。

我が国でもアメリカでも、社会科教員研修の取組(開発研究、実践)には、歴史的かつ膨大な蓄積がある。また、それらの分析研究も試みられてきた。教員研修を通じた教師の成長やその過程が明らかにされ、各教員研修の有効性が検証・実証されてきた。しかし、各教員研修において、社会科教師にどのような資質・能力を形成することが期待されているのか(=目標論)、それを形成するために、何をどのように組織化しているのか(=内容論、方法論)、という原理的な問いの解明には、課題が残されてきた。したがって、社会科教員研修の開発・改革を図る方途を示す上でも限界があった。

それに対して、本研究では、我が国における社会科教員研修の具体的な検討によって引き出された「社会科授業構成力」、「社会科教科観」をキー概念として、社会科教員研修の

目標論を設定した。結果として、①社会科授業構成力の向上を図る研修、②社会科教科観の確立を図る研修、③社会科教科観の拡張を図る研修、というあり方が想定された。以上を踏まえて、それぞれの典型事例をアメリカに求めた。

第1に、「社会科授業構成力の向上を図る研修」としてのSSIAは、社会問題学習を実現していくために有効と判断された方法論を中心に、明確な内容編成を持ったプログラムとなっていた。研修の内容は、ハーバード大学プロジェクト・ゼロによる研究成果に立脚していた。これは、一般的な教授論ではあるが、社会科教育コンサルタント（マクファーランド）が組織化することで、社会科教員研修プログラムとして成立していた。

このような技能（社会科授業構成力）に重点を置いた研修では、教師の主体性を確保し、彼ら・彼女らの実践を活かしつつ、新たな理論を獲得させていくことが求められる。オンラインのプログラムにすることで、研修開発者の直接的な参与を不要として、教師個人や教師集団で自律的に遂行できるものとしていた。

第2に、「社会科教科観の確立を図る研修」としてのエリクソンによる実践支援は、社会問題学習の中でも、概念学習を中心として研修が組織化されていた。研修の内容は、教育コンサルタント（エリクソン）自身の教師としての実践経験、その中で培われた概念学習論に求められていた。これらを中心として、各種のスタンダードを活用していくものとなっていた。例えば、全米社会科協議会のスタンダードも中に位置づけられていた。

このようなひとつの哲学（社会科教科観）に重点を置いた研修では、それ自体が運動に陥ってしまう危険性もある。ただし、エリクソンの場合は、授業者としての教師だけでなく、現場のメンターも重層的に育成することで、この課題の克服も図られていた。実際、社会科教師マグウッド（第3章第4節）のように、自律的な授業改善、さらには新たな理論の提案にも及ぶものもいた。

第3に、「社会科教科観の拡張を図る研修」としてのPASSは、社会問題学習における複数の考え方を内包するものとして研修が組織化されていた。研修の内容は、複数の社会問題学習の事例を分析させるものになっていた。そこでは、あらかじめ用意された事例（プランや授業映像）だけでなく、参加者たちが、研修の中で開発したのも活用されていた。なお、前者の事例は、様々なカリキュラム教材を踏まえて開発されていた。これらが、社会科教育コンサルタント（ハリス）によって、組織化されていた。

事例の分析を通して、多様な学習のあり方に触れることで、社会科教科観を拡張し、より俯瞰的に社会科を捉えていくことがめざされていた。

以上の、第1、第2、第3は、どれかが優位性を持つものではない。例えば、第3は、哲学的な側面まで及ぶものの、技能的な側面に関しては弱くなっている。それぞれに意義と限界性があり、教師たちには、必要なものを選択し、各自がオリジナルな教員研修体系を作り出していくことが求められている。ただし、教師個人による選択では、自身の常識に埋もれてしまう可能性もある、そこで現場の教師教育者（メンター）たちによる働きかけが重要になっている。

近年のアメリカでは、スタンダード運動などの外発的な要因を受けて、教員研修の動き

がおこったとされる。政府による多額の資金的援助もおこなわれた。この流れは、社会科にも影響を与えたことが知られている。一般に、教育政策または、教育制度的な側面から説明がされてきた。

しかし、社会科教員研修の取組の事実を踏まえると、1980年代以前のカリキュラム開発の系譜、それによる教科の本質的な議論を踏まえて、教科の本質を実現できる教師の育成が図られていったともいえるだろう。それは、社会科教育の研究者たちによって、開発されたカリキュラム教材の普及、それを忠実に実行できる他律的な授業者の育成のためではない。教師の社会科教科観（哲学）、社会科授業構成員力（技能）を高めることで、自律的な授業者に育てていく試みであったといえる。その教室の子どもにとって意味のある社会科授業を作ることができるのは、教師だけである。彼らを育ててこそ、より良い社会科授業の実現、その先にあるより良い社会の実現に繋がる。このような考え方が、本研究で取り上げたアメリカ社会科教員研修の背後にあるのではないか。

以上を踏まえて、社会科教員研修プログラムの構想をおこなった。本研究で明らかにした「社会科授業構成員力の育成」「社会科教科観の確立」「社会科教科観の拡張」という目標を明確に位置づけたものとした。対象は、小学校・中学校の社会科教師、高等学校の社会系教科教師とした。

我が国の教師文化としての学び合いが高い評価を受ける中で、アメリカでは、自国に足りない同僚性等の発想を取り込もうとする動きも見られる。一方の我が国では、同僚性や省察といった議論の進展に比して、教科の本質的な検討(教科のあるべき姿を実現していく試み)を中心とした教員研修の取組には、課題が残されている。

教師としての資質・能力のうち、各教科の授業を実施する上で、その教科に固有なものがある。それは、単元構成や評価のあり方などに表れている。本研究では、教員研修カリキュラム（目標・内容・方法）における教科固有性に注目していくといった社会科教育学としての教員研修の研究の必要性を提示した。この視点から、我が国の教員研修を批判的に捉え直すとともに、諸外国に他の選択肢を得ていくことが求められのではないか。

IV. 主要参考文献一覧

【英語文献】

- 1) Adler, S., The education of social studies teachers. In Levstik, L. S., and Tyson, C. A. (Eds.). *Handbook of Research in Social Studies Education*. New York: Routledge, 2008, pp.329-351.
- 2) American Education Research Association. Feature: Relevance in Education Research, *Educational Researcher*, 37(7), 2008, pp.412-445.
- 3) Angell, A. V., Learning to Teach Social Studies: A Case Study of Belief Restructuring, *Theory and Research in Social Education*, 26(4), 1988, pp.509-529.
- 4) Armento, B. J., The professional development of social studies educators. In Sikuta, J., Buttery, T.J., and Guyton, E., (Eds.) *Handbook of research on teacher education*, New York: Macmillan. 1996, pp. 485-502.
- 5) Blythe, T., and Associate, *The teaching for understanding guide*, San Francisco: Jossey-Bass Publishers, 1998.
- 6) Darling-Hammond, L. and Brans, J.D., (Eds), *Preparing teacher for a changing world: What*

- teacher should learn and be able to do.* San Francisco: Jossey-Bass, 2005.
- 7) Darling-Hammond, L., *Powerful Teacher Education*, San Francisco: Jossey-Bass, 2006.
 - 8) Erickson, H.L., *Concept-based Curriculum and instruction: Teaching beyond the facts*, Thousand Oaks, CA: Corwin Press., 1998.
 - 9) Erickson, H.L., *Concept-based Curriculum and instruction: Teaching beyond the facts* (2nd ed) Thousand Oaks, CA:Corwin Press., 2002.
 - 10) Erickson, H.L., *Concept-based Curriculum and instruction for the thinking classroom.* Thousand Oaks, CA: SAGE., 2007.
 - 11) Erickson, H.L., *Stirring the Head, Heart, And Soul: Redefining Curriculum, Instruction, and Concept-Based Learning.* (3rd ed) Thousand Oaks, CA:Corwin Press, 2008.
 - 12) Erickson, H. L., *Facilitator's Guide, Concept-based Curriculum and instruction for the thinking classroom.* Thousand Oaks, CA: SAGE, 2009.
 - 13) Erickson, H.L., *Facilitator's Guide Stirring the Head, Heart, And Soul:Redefing Curriculum,Instruction,and Concept-Based Learning.* (3rd ed) Thousand Oaks, CA:Corwin Press.,2009.
 - 14) Erickson, H.L., Conceptual Designs for Curriculum and Higher-Order Instruction .In Marzano, R.J. (Eds.), *On excellence in teaching*, Bloomington, IN: Solution Tree Press, 2010, pp.168-192.
 - 15) Erickson, H.L., Concept-based teaching and learning *IB position paper.*,2012.
 - 16) Erickson, H. L. and Lanning L. A., *Transitioning to Concept-Based Curriculum and Instruction: How to Bring Content and Process Together*, Thousand Oaks, CA: Corwin Press, 2014.
 - 17) Foner, E., *Give me liberty! An American history v.1*, 2 pbk. Seagull 3rd ed., W.W. Norton, 2012.
 - 18) Guskey, T. R., *Evaluating Professional Development.* Thousand Oaks, CA: Corwin Press, 2000.
 - 19) Harris, D.E., Assessing Discussion of Public Issues: A Scoring Guide, In Evans, R .W., and Saxe, D.W., (Eds.) *Handbook on Teaching Social Issues: NCSS Bulletin 93*, National Council for the Social Studies. 1996, pp.289-297.
 - 20) Hess, D. E., *Wise Practice in an Innovative Public School.* In Davis, Jr. O.L, and Yeager, E. A., (Eds.), *Wise Social Studies Teaching in an Age of High-Stakes Testing: Essays on Classroom Practices and Policies*, Information Age Publishing, 2005, pp. 131-151.
 - 21) Hintz, K., "A Better Vision of What Social Studies Can Be": How Elementary Teacher's Philosophies Influence Their Use of the History Alive! Textbook, *Theory and Research in Social Education*, 42(1), 2014, pp.96-126.
 - 22) Kenreich, T. W., *Teacher consultants in the Ohio Geography Alliance: The beliefs, classroom practices, and professional development activities.* The Ohio State University, 2000.
 - 23) Kenreich, T. W., Professional development becomes political: Geography's corps of teacher leaders. *Theory and Research in Social Education*, 30(3), 2002, pp.381-400.
 - 24) Kenreich, T. W., Beliefs, classroom practices, and professional development activities of teacher consultants. *Journal of Geography*, 103(4), 2004, pp.153-160.
 - 25) Lockwood, A. L., and Harris, D.E., *Reasoning with Democratic Values : Ethical Problem in the United State History Vol.2:1877 to Present*, New York: Teachers College Press, 1985.
 - 26) Mac, D., Using Schema Theory to Teach American History. *Social Education, Volume60, Number3*, 1996, pp.144-146.
 - 27) Magwood, A. P. and Ferraro, K. F., Using Conceptual Tensions and Supreme Court Cases to Increase Critical Thinking in Government and Civics Classrooms, *Social Education*,77 (4) ,2013, pp.206-210.
 - 28) Michigan Social Studies Education Project. *Powerful and Authentic Social Studies [PASS] Standards for Teaching*, 1996.
 - 29) National Council for the Social Studies. *Expectations of Excellence: Curriculum Standards for Social Studies*, 1994.
 - 30) National Council for the Social Studies. *Powerful and Authentic Social Studies: A Professional Development Program for Teachers, High School • Gradesk-5*,2000.
 - 31) National Council for the Social Studies. *Powerful and Authentic Social Studies: A Professional Development Program for Teachers, High School • Grades6-8*,2000.
 - 32) National Council for the Social Studies. *Powerful and Authentic Social Studies: A Professional Development Program for Teachers, High School • Grades9-12*,2000.
 - 33) Newmann, F. M., Secada, W. G., and Gary G. Wehlage. *A Guide to Authentic Instruction and*

- Assessment: Vision, Standards and Scoring*. The Wisconsin Center for Education Research, 1995.
- 34) Newmann, F. M., and Associates. *Authentic Achievement: Restructuring Schools for Intellectual Quality*, San Francisco, Jossey-Bass Publishers, 1996.
 - 35) Perkins, D. A. *Smart Schools: Better Thinking and Learning for Every Child*, New York: The Free Press, 1995.
 - 36) Perkins, D. A., and Blyth, T., Putting Understanding Up Front, *Educational Leadership*, Volume 51, Number5,1994, pp.4-7.
 - 37) Ragland, R. G., and Kelly A. W. (Eds.) *The teaching American history project: Lessons for history educators and historians*. Routledge, 2010.
 - 38) Ross, E. W., ed., *Reflective Practice in Social Studies*. Bulletin88, Washington, DC: National Council for the Social Studies, 1994.
 - 39) Ross, E. W., Teacher as Curriculum Theorizers. In Ross, E. Wayne .ed., *Reflective Practice in Social Studies*. Bulletin88, Washington, DC: National Council for the Social Studies, 1994, pp.35-41.
 - 40) Stern, B. S., ed., *The New Social Studies People, Project, and Perspectives*, Charlotte, North Carolina, Information Age Publishing Inc., 2010.
 - 41) Stigler, J. W., and Hiebert, J. *The teaching gap: Best ideas from the world's teachers for improving education in the classroom*. Simon and Schuster, 1999.
 - 42) Taba, H., *Curriculum Development Theory and Practice*, New York, Harcourt, Brace & Word, INC, 1962.
 - 43) Taba, H., *Teaching Strategies and Cognitive Functioning in Elementary School Children*, San Francisco State College, 1966.
 - 44) Thornton, S. J., Teacher as curricular-instructional gatekeeper in social studies. In J. Shaver (Ed.), *Handbook of research on social studies teaching and learning*. New York, NY: Macmillan, 1991, pp.237-248.
 - 45) Thornton, S. J., *Teaching social studies the matters: Curriculum for active learning*. New York, NY: Macmillan, 2005.
 - 46) Van Hover, S., The professional development of social studies teachers. In Levstik, L. S., and Tyson, C. A. (Eds.) , *Handbook of Research in Social Studies Education*. New York: Routledge, 2008, pp.352-372.
 - 47) Valli, L and Stout, M., Continuing Professional Development for Social Studies Teachers. In Adler, S. A. (Ed.), *Critical issues in social studies teacher education*. Information Age Publishing Inc., 2004, pp.165-188.
 - 48) Wood, T., *Professional Development in Historical Inquiry: Exploring Changes in Two Social Studies Teachers' Knowledge, Beliefs, and Practices*. University of Rhode Island, 2013.

【翻訳文献】

- 1) Cranton, P.,(入江 直子・三輪健二訳)『おとなの学びを創る』鳳書房, 2004年。
- 2) Darling-Hammond, L., and Baratz-Snowden, J. C., (秋田喜代美, 藤田慶子訳)『よい教師をすべての教室へ』新曜社, 2009年。
- 3) Knowles, M. S., (堀薫夫・三輪健二監訳)『成人教育の現代的実践』鳳書房, 2002年。
- 4) Korthagen, F. A. ed, (武田信子監訳)『教師教育学』2010年, pp.284-305。
- 5) Lawton, D., (勝野正章訳)『教育課程改革と教師の専門職性』学文社, 1998年。
- 6) Merriam, S. B., (堀薫夫・久保真人・成島美弥訳)『質的調査法入門 教育における調査法とケース・スタディ』ミネルヴァ書房, 2004年。
- 7) Mezirow, J.,(金澤睦・三輪健二監訳)『おとなの学ぶと変容』鳳書房, 2012年。
- 8) OECD (奥田かんな訳)『教師の現職研修と職能開発』ミネルヴァ書房, 2001年。
- 9) Takaki, R., (富田寅男監訳)『多文化社会アメリカの歴史』明石書店, 1995年。
- 10) Takaki, R.,(阿部紀子・石松久幸訳)『もう一つのアメリカン・ドリーム』岩波書店, 1996年。
- 11) Thornton, S. J., (渡部竜也・山田秀和・田中伸・堀田諭訳)『教師のゲートキーピング』春風社, 2012年。
- 12) Weinstein, A., and Rubel, D., (越智道雄訳)『ビジュアル・ヒストリー・アメリカ』東洋書林, 2010年。
- 13) Wiggins, G., and McTighe, J., (西岡加名恵訳)『理解をもたらすカリキュラム設計』日本標準, 2012年。

【日本語文献】

- 1) 赤尾勝己編『生涯学習理論を学ぶ人のために』世界思想社, 2004年。
- 2) 赤堀正宣『ボストン公共放送局(WGBH)と市民教育』東信堂, 2001年。
- 3) 赤堀正宣「「ズーム」に見る行動的視聴を促進する番組制作—アメリカボストン公共放送局の教育番組制作スタンス—」『教育メディア研究』第12巻1号, 2006年, pp.31-41。
- 4) 秋田喜代美「教師の力量形成—協働的な知識構築と同僚性形成の場としての授業研究」21世紀COEプログラム東京大学大学院教育学研究科基礎学力研究開発センター編『日本の教育と基礎学力』明石書店, pp.191-208, 2010年。
- 5) 秋田喜代美・キャサリン ルイス『授業の研究 教師の学習』明石書店, 2008年。
- 6) 朝倉淳編著『道徳教育実践力を育てる校内研修』溪水社, 2006年。
- 7) 浅田匡・生田孝至・藤岡完治編著『成長する教師』金子書房, 1998年。
- 8) 荒木淳子「職場を越境する社会人学習のための理論的基盤の検討—ワークプレイスラーニング研究の類型化と再考—」『経営行動科学』第21巻第2号, 2008年, pp.119-128。
- 9) 安彦忠彦編『新版 カリキュラム研究入門』勁草書房, 1999年。
- 10) 安彦忠彦『改定版 教育課程編成論』放送大学教育振興会, 2006年。
- 11) 有賀貞・大下尚一『概説アメリカ史』有斐閣, 1990年。
- 12) 安藤輝次・竹村景生・植西浩一「同僚研修の意義と導入法」『教育実践総合センター研究紀要』14巻, 2005年, pp.55-64。
- 13) 五十嵐誓『社会科教師の職能発達に関する研究』学事出版, 2011年。
- 14) 池内慈朗『ハーバード・プロジェクト・ゼロの芸術認知理論とその実践』東信堂, 2014年。
- 15) 池野範男「社会科授業内容分析の理論」『社会科研究』第30号, 1982年, pp.73-83。
- 16) 池野範男「教師の授業力向上」『社会科教育実践ハンドブック』明治図書, 2011年, pp.233-236。
- 17) 池野範男「日本の教科教育研究者とは何をどのようにする人のことか—教科教育学と教師教育—」『日本教科教育学会誌』第36巻第4号, 2014年, pp.95-102。
- 18) 石井恭子「アメリカの初等科学教育改革と現職教員研修」『大学の物理学』第12号, 2006年, pp.89-93。
- 19) 石井英真『現代アメリカにおける学力形成論の展開』東信堂, 2011年。
- 20) 石井英真「教師の専門職像をどう構想するか—技術的熟達者と省察的实践家の二項対立図式を超えて—」『教育方法の探究』第16号, 2012年, pp.9-16。
- 21) 石上靖芳「小学校における校内授業研究が教師の力量形成に及ぼす影響—活性化要因の構造的分析和指標の抽出—」『学校教育研究』第27号, 2012年, pp.38-51。
- 22) 磯崎哲夫・米田典生・中條和光・磯崎尚子・平野俊英・丹沢哲郎「教師の持つ教材化の知識に関する理論的・実証的研究—中学校理科教師の場合—」『科学教育研究』第31巻第4号, 2007年, pp.195-209。
- 23) 伊藤圭子「「インクルーシブ家庭科」における実践的指導力向上のための現職教員研修への要請」『初等教育カリキュラム研究』3号, 2015年, pp.3-11。
- 24) 伊藤裕康「社会科教師のカリキュラムづくりに関する力量形成の研究—岡崎市立矢作東小学校・岡崎市立六ツ実中学校時代の杉浦健史の場合—」『香川大学教育学部研究報告第I部』第120巻, 2003年, pp.15-30。
- 25) 伊東富士雄「学生・教師の「社会科は暗記物である」という社会科観を変容させるための試み」『玉川大学教師教育リサーチセンター年報』第2号, 2011年, pp.71-77。
- 26) 伊東亮三「教師の実践スタイルと授業(教授組織)」朝倉隆太郎編『社会科の授業研究の方法と展開』現代社会科教育実践講座刊行会, 1991年, pp.13-17。
- 27) 市川則文「『話し合う』力を学力の一つと考える教師の育成—あこがれの授業と優れた人物との出会い—」『社会科教育研究』第110号, 2010年, pp.29-39。
- 28) 稲垣忠彦・松平信久・寺崎昌男編『教師のライフコース』東京大学出版会, 1988年。
- 29) 稲垣忠彦『教師教育の創造』評論社, 2006年。
- 30) 井上奈穂「目標達成度を明確化した態度評価法—ハーバード社会科の社会的論争問題分析テストSIATを題材に—」『社会科研究』第57号, 2006年, pp.11-20。
- 31) 今井孝次郎『変動社会の教師教育』名古屋大学出版会, 1996年。
- 32) 岩田一彦『社会科授業研究の理論』明治図書, 1994年。
- 33) 岩田昌太郎「アメリカにおける体育教員養成プログラムの指導内容について—コロンビア大学を事例として—」『日本教科教育学会誌』2006年, 第29巻第2号, pp.49-57。
- 34) 岩田康之・三石初雄編『現代の教育改革と教師』東京学芸大学出版会, 2011年。
- 35) 上田薫・静岡市立安東小学校編『子どもも人間であることを保障せよ』明治図書, 1998年。
- 36) 牛渡淳『現代米国教員研修改革の研究』風間書房, 2002年。
- 37) 牛渡淳「近年の教員研修政策の動向と課題」日本教師教育学会編『日本の教師教育改革』学事出版,

- 2002年, pp.184-195。
- 38) 牛渡淳「アメリカにおける教育改革と教師の職能成長」『日本教師教育学会年報』第14号, 2005年, pp.48-54。
 - 39) 牛渡淳「アメリカにおける教員センターの機能的特質とその理論的背景—教員研修個別化の試み—」『日本教育経営学会紀要』第30号, 1988年, pp.107-123。
 - 40) 内海巖編著『社会認識教育学の理論と実践』葵書房, 1971年。
 - 41) 遠藤貴広「G. ウィギンズの「看破」学習—1980年代後半のエッセンシャル・スクール連盟における「本質的な問い」を踏まえて—」『教育方法学研究』第30巻, 2004年, pp.47-58。
 - 42) 大谷伸一「香川県の学力向上施策と教師の授業力向上について」『社会科教育研究』第110号, 2010年, pp.40-45。
 - 43) 大澤克美編著『小学校社会科・理科・体育科の学習指導に関する調査研究報告書』東京学芸大学, 小学校の学習指導に関する調査研究プロジェクト, 2015年。
 - 44) 大島崇「戦後初期の授業研究における教師の力量形成とカリキュラム開発—吉城学園の「プラン会議」と研究授業に焦点をあてて—」『教育方法学研究』第37巻, 2012年, pp.47-57。
 - 45) 大杉昭英(研究代表者)『教育方法の革新を踏まえた教員養成・研修プログラムに関する調査報告書』国立教育政策研究所, 2015年。
 - 46) 緒方真奈美「カリキュラムデザインにおける教師の実践的知識に関する事例研究—善元幸夫氏による単元デザインの場合—」『カリキュラム研究』第19号, 2010年, pp.43-57。
 - 47) 尾木和英・有村久春『教育課題に応える教員研修の実際』ぎょうせい, 2004年。
 - 48) 荻野俊明「長岡文雄氏の社会科実践における学習指導の解明—ドナルド・ショーンの「反省的实践家」の概念を手がかりに—」『社会系教科教育学研究』第12号, 2000年, pp.49-56。
 - 49) 小田泰司「タバ社会科の成立過程と再評価—ヒルダ・タバの多文化教育研究の足跡を踏まえて—」『社会科研究』第52号, 2000年, pp.11-20。
 - 50) 小野由美子「教育プログラムのボロウイング・レンディング—授業研究を例に—」『国際教育協力論集』第12巻第2号, 2009年, pp.69-80。
 - 51) 尾原康光「概念形成を行う社会科授業の構成方法と教授方略—B.K.バイヤーの所論の再構成—」『社会系教科教育学研究』第5号, 1993年, pp.67-73。
 - 52) 小柳和喜雄『教師の情報活用育成政策に関する研究』風間書房, 2010年。
 - 53) 嘉数健悟・岩田昌太郎「シンガポールにおける教員養成と現職研修の特質—教員養成を中心としたわが国への示唆—」『教育学研究ジャーナル』第7号, 2010年, pp.1-10。
 - 54) 角田将士「小学校教員養成における社会科授業構成能力の育成—教師のゲートキーピング論を手がかりに—」『立命館産業社会論集』第48巻第4号, 2013年, pp.147-158。
 - 55) 加治佐哲也『アメリカの学校指導者養成プログラム』多賀出版, 2005年。
 - 56) 梶谷真弘「Powerful and Authentic Social Studiesにおける教師の専門性の開発—社会科授業の評価基準に着目した分析研究—」『大阪教育大学社会科教育学研究』第10号, 2012年, pp.1-10。
 - 57) 片上宗二『社会科教師のための「言語力」研究』風間書房, 2013年。
 - 58) 加藤章「あるべき社会科教師論とカリキュラム」教員養成大学・学部教官研究集会社会科教育部会編『社会科教育の理論と実践』東洋館出版, 1988年, pp.20-25。
 - 59) 金子邦秀『アメリカ新社会科の研究』風間書房, 1995年。
 - 60) 上條晴夫編『教師教育』さくら社, 2015年。
 - 61) 川口広美「教師が作成したシティズンシップ実践カリキュラム構成とその特質—カリキュラム作成に関するイングランドの教師への調査を手がかりに—」『社会系教科教育学研究』第22号, 2010年, pp.141-150。
 - 62) 川口広美『イングランド中等学校シティズンシップ教育カリキュラム研究』広島大学大学院教育学研究科博士論文, 2011年。
 - 63) 川口広美「教師による社会系教科カリキュラム設計方法論の構築—高校日本史カリキュラム開発共同研究を事例として—」『社会科研究』第80号, 2014年, pp.9-20。
 - 64) 岸本幸次郎・岡東壽隆・林孝・小山悦司・河相善雄・杉山浩之「現職教育のシステム化と行政施策の方向」『日本教育行政学会年報』9号, 1983年, pp.126-152。
 - 65) 北神正行「教師の専門性と養成・研修制度」『日本教師教育学会年報』第10号, pp.55-66。
 - 66) 北神正行・木原俊行・佐野享子『学校改善と校内研修の設計』学文社, 2010年。
 - 67) 北野秋男 吉良直 大桃敏行『アメリカ教育改革の最前線』学術出版会, 2012年。
 - 68) 北田佳子「校内授業研究会における新任教師の学習過程—「認知的徒弟制」の概念を手がかりに—」『教育方法学研究』第33巻, 2007年。
 - 69) 北田佳子「校内授業研究会における教師の専門的力の形成過程—同僚との協同的学習過程を分析す

- るモデルの構築を目指して一』『日本教師教育学会年報』第 18 号, 2009 年, pp.96-106。
- 70) 木下百合子『中学校社会科教師のコミュニケーション能力促進のための訓練プログラムの開発』平成 8・9 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2)) 研究成果報告書, 1998 年。
 - 71) 木原成一郎・久保研二・大後戸一樹・岩田昌太郎・徳永隆治・林俊雄・村井潤・加登本仁・嘉数健悟「小学校における体育授業の力量形成を促す現職研修に関する研究」『学校教育実践学研究』第 20 巻, 2014 年, pp.115-124。
 - 72) 木原成一郎・徳永隆治・村井潤編『体育授業を学び続ける』創文企画, 2015 年。
 - 73) 木原俊行『授業研究と教師の成長』日本文教出版, 2004 年。
 - 74) 木原俊行・矢野裕俊・森久佳・廣瀬真琴「学校を基盤とするカリキュラム開発」を推進するリーダー教師のためのハンドブックの開発』『カリキュラム研究』第 22 号, 2013 年, pp.1-14。
 - 75) 紀平英作編『アメリカ史』山川出版, 1999 年。
 - 76) 木村博一「社会科教育としての歴史授業ー長岡文雄の「寄合」実践の場合ー」『歴史研究』第 36・37 号合併号, 1991 年, pp.87-108。
 - 77) 木村博一「地域教育実践の構築に果たした社会科教師の役割ー愛知県三河地域における中西光夫と渥美利夫の場合ー」『社会科研究』第 70 号, 2009 年, pp.21-30。
 - 78) 木村博一「社会科教科書の改善と教師の授業能力の成長ー「教育内容」としての教科書と「教材」としての教科書の両立ー」『教科書フォーラム』第 1 号, 2003 年, pp.31-40。
 - 79) 木村博一「教師の共同的な授業研究を通じた授業づくり」『新社会科授業づくりハンドブック 小学校編』明治図書, 2015 年, pp.235-245。
 - 80) 桐谷正信『アメリカにおける多文化的歴史カリキュラム』東信堂, 2012 年。
 - 81) 草原和博『地理教育内容編成論研究』風間書房, 2004 年。
 - 82) 草原和博・藤本奈央子・松原直哉・渡邊巧「日本の社会科教育研究の動向と特質」『論文集 第 1 回全国社会科教育学会・韓国社会教科教育学会研究交流 日韓社会科教育研究の新しい動向』2011 年, pp.49-74。
 - 83) 草原和博「多文化的性格の地域を教師はどのように教えるかー社会科教師の意思決定の特質とその要件ー」『社会科教育研究』第 116 号, 2012 年, pp.57-69。
 - 84) 草原和博「日本の社会科研究の方法論的特質ーシェーバーと森分の研究観の接点と相違を手がかりにしてー」『社会科教育論叢』第 48 集, 2012 年, pp.97-108。
 - 85) 草原和博・大坂遊・瀬戸康輝・田口敏郎・中山茜・西村祥太郎・好井基文「社会科教師はどのようなカリキュラムデザインが可能かー歴史学習材の開発と活用の事例研究ー」『学校教育実践学研究』第 20 巻, 2013 年, pp.91-102。
 - 86) 草原和博・岡田了祐・渡邊巧・大坂遊・能見一修・横山千夏・若原崇史・寺嶋崇「社会科教師はどのようなカリキュラムデザインが可能か (2)ー公民学習材の開発と活用の事例研究ー」『学校教育実践学研究』, 第 21 巻, 2015 年, pp.83-96。
 - 87) 工藤文三編『学力を育てる“教師力”の向上』教育開発研究所, 2005 年。
 - 88) 久保田貢『「机化」する子どもたちを起こす社会科教育の特質と教師の発達についての研究ー井ノ口貴史へのライフヒストリー的アプローチー』『社会科教育研究』第 102 号, 2007 年, pp.25-36。
 - 89) 久保富三夫『戦後日本教員研修制度成立過程の研究』風間書房, 2005 年。
 - 90) 倉本哲男「アメリカにおけるカリキュラムマネジメント論の構造ー先行研究総括の位置付けからー」『佐賀大学文化教育学部研究論文集』第 11 巻 1 号, 2006 年, pp.155-185。
 - 91) 倉本哲男「校内研修と学校改善に関するアクションリサーチーカリキュラムマネジメントとレッスンスタディーの視点からー」日本教育方法学会編『授業研究と校内研修』図書文化社, 2014 年, pp.91-103。
 - 92) グループ・ディダクティカ編『学びのための教師論』勁草書房, 2007 年。
 - 93) グループ・ディダクティカ編『教師になること, 教師であり続けること』勁草書房, 2012 年。
 - 94) 桑原敏典「自立的な価値観の形成を目指す社会科論争問題学習ー「アメリカの社会的論争問題」を事例としてー」『社会系教科教育学会』第 12 号, 2000 年, pp.93-104。
 - 95) 桑原敏典『中等公民的教科内容編成の研究』風間書房, 2004 年。
 - 96) 桑原敏典「教員の資料活用力向上を目指した社会科授業力開発研修プログラムに関する研究」『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』第 140 号, 2009 年, pp.33-41。
 - 97) 桑山尚司・鈴木由美子・木村博一・山崎敬人・竹下俊治・木下博義・小山正孝・影山和也・棚橋健治・草原和博・岡村美由規・岩田昌太郎・齊藤一彦・丸山恭司・吉田成章「国際協力版「授業研究入門マニュアル」の開発(2)」『広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書』第 13 巻, 2015 年, pp.113-120。
 - 98) 鞍馬祐美「米国の教師教育における Professional Development School の意義と課題ーミシガン州立大学の事例分析を通してー」『日本教師教育学会年報』第 11 号, 2002 年, pp.99-109。

- 99) 小高さほみ『教師の成長と実践コミュニティ』風間書房, 2010年。
- 100) 児玉康弘「社会的判断力育成の教材構成—D.W.オリバーの公的問題について—」『社会科研究』第25号, 1977年, pp.93-102。
- 101) 後藤賢次郎「Diana Hessの社会科教材観—主体的な教師による子ども・教育内容・現実社会の接続—」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部(文化教育開発関連領域)』60巻, 2011年, pp.41-50。
- 102) 後藤賢次郎『アメリカ社会科教育思想研究』広島大学大学院教育学研究科博士論文, 2012年。
- 103) 小林宏己「自律的な社会科授業実践の再構築—指導法固定化の克服—」『社会科教育研究』第110号, 2010年, pp.17-28。
- 104) 小原友行『初期社会科授業論の展開』風間書房, 1998年。
- 105) 米田豊「社会科教員の授業力—教育現場の現状と教職大学院の実践から—」『社会科教育研究』第110号, 2010年, pp.6-16。
- 106) 小山悦司「教師のプロフェッショナル・グロースに関する研究—教師の成長過程と教師教育プログラムの関連—」『日本教育経営学会紀要』24号, 1982年, pp.41-53。
- 107) 小山悦司「教師のプロフェッショナル・グロースに関する研究—米国における教師教育機関の連携について—」『岡山理科大学紀要』B, 人文・社会科学, 19号, 1983年, pp.51-64。
- 108) 阪上弘彬「地理資料 ヨーロッパ地球科学連合によるESDを意識した教員研修の取り組み」『新地理』Vol.61No.3, 2013年, pp.54-59。
- 109) 榊田久雄「教員の現職研修の類型論的考察—アメリカにおける経過と動向—」『教育実践研究指導センター研究紀要』6, 1987年, pp.1-18。
- 110) 坂本篤「現職教師は授業経験から如何に学ぶか」『教育心理学研究』第55号, 2007年, pp.584-596。
- 111) 坂本篤『協同的な省察場面を通じた教師の学習過程』風間書房, 2013年。
- 112) 佐久間亜紀「進歩主義教育運動における教師教育プログラムの事例研究—「教育実験研究所」の教師教育プログラムに注目して—」『教育学研究』第62巻第4号, 1995年, pp.339-347。
- 113) 佐久間亜紀「1930年代における現職教育ワークショップの成立『八年研究』における現職教育プログラムの形成過程」『日本教師教育学会年報』第5号, 1996年, pp.89-107。
- 114) 佐久間亜紀「19世紀米国における教職専門職化運動批判—メアリー・ライアの教師教育思想と実践を手がかりに—」『東京学芸大学紀要 第1部門 教育科学』第55集, 2004年, pp.313-324。
- 115) 佐久間亜紀「世界における教師教育研究の展開」日本教育方法学会編『教育方法学研究ハンドブック』学文社, 2014年, pp.224-227。
- 116) 佐藤学『米国カリキュラム改造史研究』東京大学出版会, 1990年。
- 117) 佐藤学『カリキュラムの批評』世織書房, 1996年。
- 118) 佐藤幹男『近代日本教員現職研修史研究』風間書房, 1999年。
- 119) 佐藤幹男『戦後教育改革期における現職研修の成立過程』学術出版会, 2013年。
- 120) 柴田好章「授業洞察力を高める校内授業研究のあり方」『考える子ども』No.355, 2014年, pp.18-22。
- 121) 島田希「教師の学習と成長に関する研究動向と課題—教師の知識研究の観点から—」『教育実践研究』第10号, 2009年, pp.11-20。
- 122) 白井克尚「相川日出雄による郷土史中心の小学校社会科授業づくり—「新しい地歴教育」実践の創造過程における農村青年教師としての経験と意味—」『社会科研究』第79号, 2013年, pp.13-24。
- 123) 信州大学教育学部附属教育実践総合センター編『ティーチング・ポートフォリオを活用して教科指導力を高める研修プログラムの開発』信州大学教育学部附属教育実践センター, 2007年。
- 124) 須本良夫「社会科授業における教師力を高める省察の研究(1)」『岐阜大学教育学部研究報告 教育実践研究』第14巻第2号, 2012年, pp.19-29。
- 125) 全国社会科教育学会編著『中学校・高校の“優れた社会科授業”の条件』明治図書, 2007年。
- 126) 社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』明治図書, 2012年。
- 127) 全国社会科教育学会編著『小学校の“優れた社会科授業”の条件』明治図書, 2007年。
- 128) 全国社会科教育学会編著『中学校・高校の“優れた社会科授業”の条件』明治図書, 2007年。
- 129) 全国大学国語教育学会編『国語科教師教育の課題』明治図書, 1997年。
- 130) 高見仁志『音楽科における教師の力量形成』ミネルヴァ書房, 2014年。
- 131) 田口絢子・溝口和宏・田宮弘宣「実践的な力量形成を実現する教員研修モデルカリキュラムに関する研究—「社会科授業実践力診断カルテ」の開発を通して—」『鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要』第19巻, 2009年, pp.13-22。
- 132) 田口絢子『現代アメリカ初等歴史学習論研究』風間書房, 2011年。
- 133) 田口絢子「米国の社会科研究の方法論的特質—テキサス大学オースチン校「小学校社会科教育法」を事例にして—」『社会科教育論叢』第48集, 2012年, pp.77-86。

- 134) 田中史郎「小学校教師教育における専門性を高める教育課程改善のための調査－社会科地域教材研究能力育成の観点から－」『岡山大学教育学部研究集録』第 77 号, 1988 年, pp.105-115。
- 135) 田中伸「シティズンシップ教育実践の多様性とその原理－学習環境を規定する市民性意識の解明を通して－」『教育方法学研究』第 36 卷, 2011 年, pp.39-50。
- 136) 田中伸『現代アメリカ社会科の展開と構造』風間書房, 2011 年。
- 137) 棚橋健治『アメリカ社会科学習評価研究の史的展開』風間書房, 2002 年。
- 138) 棚橋健治『社会科の授業診断 よい授業に潜む危うさ研究』明治図書, 2007 年。
- 139) 棚橋健治「「学」の確立からみた社会科学研究の方法論と国際化の課題」『社会科教育論叢』第 48 集, 2012 年, pp.27-36。
- 140) 棚橋健治・渡邊巧・大坂遊・草原和博「教員志望学生の社会科授業プランになぜ違いが生じるのか－教科指導力の育成のあり方に示唆するもの－」『学校教育実践学研究』第 20 卷, 2014 年, pp.125-139。
- 141) 棚橋健治・渡邊巧・大坂遊・岩田昌太郎・草原和博「教師のリーダーシップと教科指導力の育成プログラム－シンガポールにおける国立教育学院の GPL に注目して－」『学校教育実践学研究』第 21 卷, 2015 年, pp.133-141。
- 142) 棚橋健治「教師の共同的な授業研究を通じた授業づくり」全国社会科教育学会編『新社会科授業づくりハンドブック 中学校編』明治図書, 2015 年, pp.237-245。
- 143) 谷本美彦・原田雅登・吉田甫・菅邦男・角屋重樹・山本信也・児玉修・楠野義頭「教師教育における授業分析能力の開発に関する基礎的研究－西米良村立村所小学校におけるカリキュラム及び授業研究を素材として－」『宮崎大学教育学部紀要 社会科学』第 54 号, 1983 年, pp.45-74。
- 144) 胤森裕暢「校内授業研究の改善に関する考察」『広島経済大学研究論集』第 35 卷第 4 号, 2013 年, pp.185-189。
- 145) 田上哲「大学が取り組む現職教員研修の条件・課題に関する考察」『教科教育学研究』第 23 集, 2005 年, pp.173-186。
- 146) 田上哲「大学における現職教員研修システム開発のための基礎的考察 2－教員の研修観と職能成長のタイプの問題－」『香川大学教育実践総合研究』12 卷, 2006 年, pp. 59-67。
- 147) 田上哲「大学が取り組む現職教員研修に関する研究－香川大学研修講座の研修参加教員へのアンケート調査より－」『香川大学教育実践総合研究』15 卷, 2007 年, pp. 19-32。
- 148) 千々布敏弥「校内研究としての授業研究の現状と課題」日本教育方法学会編『授業研究と校内研修』図書文化社, 2014 年, pp.10-21。
- 149) 築地久子『生きる力をつける授業』黎明書房, 1991 年。
- 150) 寺本潔「アメリカ合衆国における地理教育復興運動の展開(1)－ミネソタ州現職教員研修会について－」『愛知教育大学教科教育センター研究報告』第 16 卷, 1992 年, pp.193-199。
- 151) 東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター編『東アジアの教師はどう育つか』東京学芸大学出版会, 2008 年。
- 152) 徳岡慶一「pedagogical content knowledge の特質と意義」『教育方法学研究』第 21 卷, 1995 年, pp.67-75。
- 153) 徳永隆治「小学校体育科授業の指導力向上をめざす現職研修に関する研究」『安田女子大学紀要』43, 2015 年, pp.213-222。
- 154) 戸田善治「今, なぜ「教職の専門性」なのか－課題研究「社会科教育の視点から見た教職の専門性」－」『社会科教育研究』第 106 号, 2009 年, pp.23-25。
- 155) 外池智「教員研修における平和教育－広島市,長崎市,那覇市の取り組みを事例として－」『秋田大学教育文化学部研究紀要』教育科学 第 70 集, 2015 年, pp.1-18。
- 156) 外山英昭「社会科教師としての資質と授業づくりの力量」『社会科教育研究』No.64 号, 1991 年, pp.45-58。
- 157) 豊島啓司「社会科のアーギュメンテーション研究－一斉授業における教師“リヴォイシング”の社会科方略的研究－」『教育方法学研究』第 36 卷, 2011 年, pp.1-12。
- 158) 長岡文雄『考えあう授業』黎明書房, 1986 年。
- 159) 中島常彦「小学校社会科教師の力量形成過程に関する研究－岡田渉教諭の場合－」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部(文化教育開発関連領域)』第 63 号, 2014 年, pp.69-78。
- 160) 中田正弘「オランダ VELON (教師教育者協会) の取り組みと教師教育者支援の現状」『帝京大学教職大学院』第 3 号, 2012 年, pp.13-17。
- 161) 中田正弘「校内授業研究を促進する要因に関する事例研究」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第 62 卷第 2 号, 2014 年, pp.85-102。
- 162) 中田正弘「「校内授業研究の活性化」への示唆－知識創造理論を手がかりとして－」『帝京大学大学院教職研究科年報』第 5 号, 2014 年, pp.1-11。

- 163) 長倉守「中学校「世界の諸地域」学習における授業設計の模索－社会科教師へのインタビュー調査をもとにした質的研究－」『新地理』第63巻第2号, 2015年, pp.1-14。
- 164) 永田忠道・池野範男『地域からの社会科の探究』日本文教出版, 2014年。
- 165) 中留武昭「アメリカにおける「自律的な学校経営(School-Based Management)」の制度論的考察」『教育経営学研究紀要』第6号, 2003年, pp.1-20。
- 166) 中本和彦「教員研修における社会科授業力形成」梅津正美・原田智仁編著『教育実践学としての社会科授業研究の探求』風間書房, 2015年, pp.289-309。
- 167) 中村秩祥子「イタリアの初等教育教員向けオンライン英語研修制度」『滋賀大学教育学部紀要 教育科学』第61巻, pp.49-61, 2011年。
- 168) 中山康雄『科学哲学入門』勁草書房, 2008年。
- 169) 中原淳編著『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社, 2006年。
- 170) 中原淳・荒木淳子「ワークプレイスラーニング研究序説:企業人材育成を対象とした教育工学研究のための理論レビュー」『教育システム情報学会誌』Vol.23 No.2 2006年, pp.80-103。
- 171) 名須川知子・渡邊隆信編『教員養成と研修の高度化』ジエース教育新社, 2014年。
- 172) 西穰司「イギリスの現職教育の現状－ケンブリッジ教育研究所の事例を中心に－」『日本教師教育学年報』第2号, pp.159-168。
- 173) 西村公孝「教職大学院における教材開発と実践を活用した社会科教師の専門性－裁判員制度の導入に対応した教科書教材開発を事例として－」『社会科教育研究』No.114, 2010年, pp.103-115。
- 174) 二宮皓編『市民性形成論』放送大学教育振興会, 2007年。
- 175) 日本教師教育学会編『教師として生きる』学文社, 2002年。
- 176) 日本教師教育学会編『日本の教師教育改革』学事出版, 2008年。
- 177) 八田幸恵「リー・ショーマンにおける教師の知識と学習過程に関する理論の展開」『教育方法学研究』第35巻, 2009年, pp.71-81。
- 178) 浜田博文「アメリカ学校経営における共同的意思決定の展開と校長の役割期待変容－1970年代～1990年代フロリダ州におけるSBMの展開過程を対象として－」日本教育経営学会紀要, 第48号, 2006年, pp.115-129。
- 179) 浜田博文『「学校の自律性」と校長の新たな役割』一藝社, 2007年。
- 180) 林未和子「米国における家庭科教師のためのナショナルスタンダード－開発プロセスとその成果－」『日本教科教育学会誌』第36巻第4号, 2014年, pp.33-46。
- 181) 久富善之編『教員文化の日本の特性』多賀出版, 2003年。
- 182) 久富善之編著『教師の専門性とアイデンティティ』勁草書房, 2008年。
- 183) 姫野完治「校内授業研究及び事後検討会に対する現職教師の意識」『日本教育工学会論文誌』35巻増刊号, 2011年, pp.17-20。
- 184) 姫野完治「校内授業研究を推進する学校組織と教師文化に関する研究(1)」『秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要』第34号, 2012年, pp.157-167。
- 185) 姫野完治『学び続ける教師の養成』大阪大学出版会, 2013年。
- 186) 広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター編『教員研修モデルカリキュラム開発プログラム:三者協働手づくりプログラム』広島大学大学院教育学研究科, 2007年。
- 187) 福山文子「博物館活用に求められる『教師力』－『構成的な学び』の視点から－」『社会科教育研究』第110号, 2010年, pp.95-106。
- 188) 藤井大亮「Foxfire 教員研修プログラムの構造と特徴－米国ジョージア州 Foxfire センターにおける夏季研修コースの参与観察から－」『千葉経済論叢』第41号, 2009年, pp.37-62。
- 189) 藤井千春「教師の成長と力量形成を考える」片上宗二・田中耕治編『学びの創造と学校の再生』ミネルヴァ書房, 2002年, pp.120-135。
- 190) 藤岡完治『関わることへの意志』国土社, 2000年。
- 191) 藤澤國治「長岡文雄氏の社会科教育実践史研究－問題解決学習の理論構築過程の解明－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第10号, 1998年, pp.29-36。
- 192) 藤本駿「米国メリーランド州における教師教育制度の構造と特質--教員免許制度と教員研修政策に注目して」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部(教育人間科学関連領域)』第57号, 2008年, pp.75-81。
- 193) 藤本駿「米国の教師教育における「職能開発学校」の特質と課題」『教育行政学研究』第29号, 2008年, pp.11-20。
- 194) 藤本駿「米国における教師教育スタンダード開発の動向－『教師教育者スタンダード』に焦点を当てて－」『教育行政学研究』第31号, 2010年, pp.27-37。

- 195) 藤本駿「現代米国ウィスコンシン州における教員研修制度の特徴と課題－NCLB 法制定以後の動向を中心に－」『東亜大学紀要』第 14 巻, 2011 年, pp.1-15。
- 196) 藤本駿「米国メリーランド州における教師教育スタンダードの特質－NCATE 及び INTASC との関連に注目して－」『教育行政学研究』第 33 号, 2012 年, pp.9-18。
- 197) 藤本将人「市民性教育におけるオーセンティック (Authentic) 概念の特質－ミシガン州社会科評価プロジェクトの場合－」『社会科研究』第 61 号, 2004 年, pp.21-30。
- 198) 藤本将人・樋口達也・中村拓人・林祐史・細川遼太・池田泰弘・森田耕平・今野碧・細野歩「北海道東部地域における教師教育の課題とその克服(1)－社会科授業づくりの可視化と共有－」『北海道教育大学紀要 教育科学編』第 63 巻第 2 号, 2013 年, pp.115-123。
- 199) 藤本将人・樋口達也・中村拓人・林祐史・細川遼太・池田泰弘・森田耕平・今野碧・細野歩「北海道東部地域における教師教育の課題とその克服(2)－授業開発の実際－」『北海道教育大学紀要 教育科学編』第 64 巻第 1 号, 2013 年, pp.149-161。
- 200) 藤村祐子「米国ミネソタ州における新しい教員評価制度の意義－連邦教員政策と関連して－」『教育行政学研究』第 35 号, 2014 年, pp.17-29。
- 201) 藤原顕・遠藤瑛子・松崎正治『国語科教師の実践的知識へのライフヒストリー・アプローチ』溪水社, 2006 年。
- 202) 船津需遥「社会科における授業力の研究－小学校初任教師の社会科における授業力の変化・向上に関する質的研究－」『埼玉社会科教育研究』第 20 号, 2014 年, pp.6-13。
- 203) 細川大輔『国語科教師の学び合いによる実践的力形成の研究』ひつじ書房, 2013 年。
- 204) 堀田論「教師のゲートキーピングを支援する社会科スタンダードの構成原理－米国における新旧 NCSS カリキュラムスタンダードの機能の原理的転換－」『社会科研究』第 82 号, 2015 年, pp.25-36。
- 205) 牧昌見編著『教員研修の総合的研究』ぎょうせい, 1982 年。
- 206) 牧貴愛『タイの教師教育改革』広島大学出版会, 2012 年。
- 207) 的場正美「ドイツ政治教育の現職教育構想と教師に求められる資質－ノルトライン・ヴェストファーレン州を例として－」『教育方法学研究』第 26 巻, 2000 年, pp.39-46。
- 208) 松尾知明『アメリカの現代教育改革』東信堂, 2010 年。
- 209) 松尾正幸「社会科教師とその教員養成の研究」全国社会科教育学会編『社会科教育学研究ハンドブック』明治図書, 2001 年, pp.162-169。
- 210) 松岡尚敏「社会科教師の専門性発達と教員養成の問題」『宮城教育大学紀要』第 37 巻, 1997 年, pp.89-103。
- 211) 丸山範高「国語科教師が授業実践知を構築する学習過程－行政教員研修経験が中堅国語科教師の学習に及ぼす影響を中心に－」『日本教科教育学会誌』第 36 巻, 第 4 号, 2014 年。
- 212) 丸山範高『教師の学習を見据えた国語科授業実践知研究』溪水社, 2014 年。
- 213) 溝口和宏『現代アメリカ歴史教育改革論研究』風間書房, 2003 年。
- 214) 溝口和宏・田口紘子・田宮弘宜「実践的な力形成を実現する教員研修モデルカリキュラムに関する研究(2)－「社会科授業実践力診断カルテ」の活用と検証を通して－」『鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要』第 20 巻, 2012 年, pp.25-36。
- 215) 三石初雄「日本における教師教育研究の展開」日本教育方法学会編『教育方法学研究ハンドブック』2014 年, pp.220-223。
- 216) 三好信浩『教師教育の成立と発展』東洋館出版, 1972 年。
- 217) 峯明秀『社会科授業改善の方法論改革研究』風間書房, 2011 年。
- 218) 峯明秀・小野智史「社会科授業における PDCA サイクル構築の実証的研究Ⅲ－中学校現場における研究会の取組が、自分自身の授業をどのように変えたか－」『大阪教育大学社会科教育学研究』第 12 号, 2013 年, pp.9-18。
- 219) 三輪建二『おとなの学びを育む』鳳書房, 2009 年。
- 220) 村井大介「公民科教師の教科観の特徴とその形成要因－教師のライフヒストリーの語りに着目して－」『公民教育研究』第 20 号, 2012 年, pp.49-66。
- 221) 村井大介「社会科教師の専門性に関する言説の展開とその課題－社会科教師研究における新たな方法論の確立を見据えて－」『中等社会科教育研究』第 31 号, 2012 年, pp.71-85。
- 222) 村井大介「ライフヒストリーの中で教師は授業を如何に語るか－教師の授業観からみた社会科教育研究の課題」『社会科教育研究』第 121 号, 2014 年, pp.14-27。
- 223) 村井大介「地理歴史科教師の歴史教育観の特徴とその形成要因－教師のライフストーリーの聴き取りを通して－」『社会科研究』第 81 号, 2015 年, pp.27-38。

- 224) 村井潤・木原成一郎・松田泰定・岩田昌太郎・久保研二・徳永隆治・林俊雄・藤本翔子・加登本仁・林楠・大後戸一樹「小学校教師が現職研修に求める機能に関する事例研究」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第一部(学習開発関連領域)』第 60 号, 2011 年, pp.73-80。
- 225) 森田真樹「多文化社会米国における歴史カリキュラム開発—合衆国史ナショナル・スタンダードをめぐる論争を手がかりに—」『カリキュラム研究』第 6 号, 1997 年, pp.41-52。
- 226) 森田真樹「社会科カリキュラム編成(1)地理歴史中心(知識)」社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』明治図書, 2012 年, pp.109-116。
- 227) 森利枝「アメリカの職業教育ユニット化について—国際継続教育訓練協会と継続教育ユニット」『学位研究』第 16 号, 2002 年, pp.107-121。
- 228) 森分孝治「現代アメリカ社会科カリキュラム研究の示唆するもの」朝倉隆太郎・平田嘉三・梶哲夫編『社会科教育学研究』第 2 集, 明治図書, 1976 年, pp.5-43。
- 229) 森分孝治「社会科教師の資質と専門性」教員養成大学・学部教官研究集会社会科教育部会編『社会科教育の理論と実践』東洋館出版, 1988 年, pp.50-55。
- 230) 森分孝治『アメリカ社会科教育成立史研究』風間書房, 1994 年。
- 231) 八尾坂修「アメリカにおける教員・校長・教育長の資格と生涯学習—日本の特色との比較考察—」現代アメリカ教育研究会編『生涯学習をめざすアメリカの挑戦』教育開発研究所, 1993 年, pp.177-213。
- 232) 八尾坂修『アメリカ合衆国教員免許制度の研究』風間書房, 1998 年。
- 233) 八尾坂修「アメリカにおける教師教育改革—免許資格・大学養成・オールタナティブの視点から—」『日本教師教育学会年報』8 号, 1999 年, pp.42-47。
- 234) 八尾坂修編著『教員人事評価と職能開発』風間書房, 2005 年。
- 235) 八尾坂修「アメリカにおける教員養成・免許・研修制度をめぐる今日的发展方向」人間教育研究協議会編『教育フォーラム』金子書房, 2007 年, pp.80-91。
- 236) 八尾坂修「アメリカの教員免許・養成・研修制度に学ぶ」『SYNAPSE』Vol.8, 2011 年, pp.10-13。
- 237) 谷田部玲生(研究代表者)『社会系教科における現職教員の授業力向上プログラム作成のための研究』国立教育政策研究所, 2009 年。
- 238) 谷田部玲生(研究代表者)『免許状更新講習における社会科系教科教育講習プログラム(科学研究費補助金基盤研究 B) 研究成果報告書』2012 年。
- 239) 山口健二・赤木里香子「学校教員の職能開発機関としてのアメリカの美術館—20 世紀末の美術教育改革動向を背景に—」『美術教育学』第 25 号, 2004 年, pp.441-455。
- 240) 山崎準二「教師としての発達と専門的力量—その捉え方の転換を図る—①」『日本教師教育学会年報』第 10 号, 学事出版, pp.6-12。
- 241) 山崎準二『教師のライフコース研究』創風社, 2002 年。
- 242) 山崎準二「韓国・中国・日本を比較してみた現職教員研修の現状と課題」東京学芸大学教員養成カリキュラム開発センター編『東アジアの教師はどう育つか』東京学芸大学出版会, 2008 年, pp.148-155。
- 243) 山崎準二『教師の発達と力量形成』創風社, 2012 年。
- 244) 山崎敬人『理科教師の専門的力量の向上を目指した教師教育の改善に関する研究(科学研究費補助金基盤研究 C) 研究成果報告書』2007 年。
- 245) 山田秀和『開かれた科学的社會認識形成をめざす歴史教育内容編成論の研究』風間書房, 2011 年。
- 246) 矢野博之「教師の教育内容知識に関する研究の動向—社会科を中心として—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第 38 巻, 1998 年, pp.287-295。
- 247) 横須賀薫『新版 教師養成教育の探究』春風社, 2010 年。
- 248) 横須賀薫「教員の資質能力向上と「学び続ける教員像」」『中等教育資料』第 924 号, 2013 年, pp.10-15。
- 249) 吉崎静夫「授業研究と教師教育(1)—教師の知識研究を媒介として—」『教育方法学研究』1988 年, pp.11-17。
- 250) 吉崎静夫『教師の意思決定と授業研究』ぎょうせい, 1991 年。
- 251) 吉崎静夫『デザイナーとしての教師, アクターとしての教師』金子書房, 1997 年。
- 252) 米岡裕美「日本における成人教育方法論の構造に関する一考察」『図書館情報学研究』10 号, 2011 年, pp. 75-84。
- 253) 米沢崇「教職員の力量および学校の組織力を向上させる校内研修」『学校教育』1159 号, 2014 年, pp.18-23。
- 254) 脇本健弘・町支大祐『教師の学びを科学する』北大路書房, 2015 年。
- 255) 渡部竜也「カリキュラム・授業理論と教師教育論の連続的探求の必要性—教科内容専門領域改革に向けた研究方法への提言: 社会科を事例として—」『社会科教育研究』第 110 号, 2010 年, pp.69-81。
- 256) 渡部竜也「「授業研究」からみた社会科研究の方法論と国際化の課題—「わが国の「規範科学」としての授業研究方法論: 6 つの展開—」『社会科教育論叢』第 48 集, 2012 年, pp.47-56。

- 257) 渡部竜也「市民的資質育成における法規範的価値学習の到達点—道徳性発達教育とハーバード社会科の比較を中心に—」『東京学芸大学紀要 人文社会科学系Ⅱ』第64集, 2013年, pp.1-24。
- 258) 渡部竜也「アメリカ合衆国社会科教師の意識調査—全米小中校教師対象アンケートの結果と解説—」『学藝社会』第30号, 2014年, pp.101-116。
- 259) 渡部竜也『アメリカ社会科における価値学習の展開と構造』風間書房, 2015年。
- 260) 渡邊洋子『生涯学習時代の成人教育学』明石書店, 2002年。